

6月定例月議会特集3

6月定例月議会は21日に閉会しました。今週の市議団ニュースでは、補正予算審査特別委員会での鈴木氏の質疑を中心にお知らせします。

市役所旧庁舎の解体工事は？

旧庁舎解体後に、市が保有する重機の車庫を整備する予定でしたが、整備予定箇所の地層などの関係から、重機用車庫の整備は困難と判断し、一般車両用の車庫を整備します。今回の補正予算では、設計変更に伴うものとして、495万円増額補正されました。

逆に減少するようです。

質疑の中で、工事が始まると来庁者用の駐車スペースが一時的に制限されるほか、出入り口が変更されることも明らかにしました。鈴木委員は、来庁される方々の安全確保が最優先だと指摘。あらゆる手段を活用して徹底した周知を図ることを求めました。

Uターン・Iターンの若者増！

Uターン・Iターンで市内に就職する若年者と、雇用する側の企業に対する補助金が増額補正されました。当初予算では2件分を計上。ここ数年は当初予算内で収まっていたが、本年度はすでに2件決定し、さらに1件申請されている状況です。新たな申請にも対応できるように

また、労働者の「働き方改革」や最近の人件費の高騰などの影響により、総体の工事費も3億1千万円ほど増える予定です。ただし、国・道の補助金などが多く見込ま

るなどして、根室で働く若者がさらに増えることを期待します。

消防本部用備品として防災訓練用VRを購入

消防本部では、「自治体総合センターコミュニティ助成事業」の補助金百万円を活用して、防災訓練用VR（バーチャリリティ）を購入します。専用のゴーグルを装着することによって、火災、土砂災害、地震などの災害を疑似体験できます。

1回3分程度。現在、防火女性クラブなどでの活用が予定されています。予算上今回は1台の購入でしたが、効果が確認されれば、台数を増やしていくことも検討すべきと考えます。

審査の結果、補正予算案は全会一致で可決されました。

はたやま和也「かけある記」

2024年6月24日

全道で「核ごみ押し付けるな」の声を



元衆議院議員 はたやま和也

しばらくぶりに寿都町へ。3月に福島県浪江町などを訪れた前町議の幸坂順子さんの報告会に、私も参加させていただきました。町長候補だった越前谷由樹町議や「町民の会」のみなさんなど、多くの方が足を運ばれていました。幸坂さんを先頭に、地元党組織が「核のごみ」文献調査やめよと奮闘してきた結果です。

町は24日から町内7カ所で、核ごみ・地層処分「勉強会」を開きます。「概要調査に進む準備では」「事前に資料も示されず、進め方が雑過ぎる」などのほか、道条例があるから反対という鈴木知事の姿勢も「『いまの段階で』というのが心配だ」との意見が相次ぎました。

町長の文献調査受け入れ表明から、もうすぐ4年。ある町民は「こんなに長く運動するとは思わなかった」と言います。誰もが寿都を愛する気持ちは同じなのに、賛成か反対かで町民同士がギスギスする——札幌を使つて核ごみ受け入れを迫ってくる、自民党政治の罪深さを痛感します。さらに町民を苦しめることは許されません。

「核ごみの調査を、共産党はどう考えますか」。札幌市内のつどいの場で、私に質問した方は寿都町出身で、町民同士の分断に胸を痛めているといいます。反対の声を全道であげましょうと呼びかけると、この方はニコリ。その後に入党を決意してくださいました。

党小樽地区は来月13日に、岩内町で「原発・核ごみシンポジウム」を開きます。原発ゼロ・核ごみ押し付ける名の声を広げて生きたい。